

宮城県産大豆の生産と実需者ニーズ

伊藤和子

(宮城県農業・園芸総合研究所)

Production and Users Needs of Soybeans Produced in Miyagi Prefecture

Kazuko Itou

(Miyagi Prefectural Agriculture and Horticulture Research Center)

1 はじめに

宮城県の大豆作付面積は年々増加しており、平成 13 年度大豆作付面積は全国第 2 位の 9,350ha と拡大した。

しかし大豆の生産の現状は、品質低下や低収等により、交付金がなければ成立することが難しい状況ある。また販売については、JA 系統流通が約 6 割となっており、それ以外は契約栽培や自給等が占めている。今後も生産量の増加が予想される県産大豆の、消費拡大を図るための一方策として「地産地消の推進」が考えられる。

そこで、地元の大豆加工食品製造業者（以下、製造業者という）および学校給食献立作成担当者（以下、献立作成者という）の県内産大豆及びその加工食品利用の現状と今後の意向から、県内産大豆消費拡大の可能性について検討した。

2 試験方法

アンケート調査の対象は、県内の製造業者 191 社と県内小中学校の献立作成者 257 名とした。アンケート調査は、製造業者に対しては平成 14 年 2 月に、献立作成者に対しては平成 13 年 12 月に調査用紙を郵送し回収した。回収率は前者が 35.1%、後者が 80.5%となった。

3 試験結果及び考察

(1) 製造業者の県内産大豆利用状況と今後の意向

県内産大豆利用状況については、「計画的に利用している」のは 15 業者(22.4 %)で、「利用しているが計画的でない」「利用していない」のは 49 業者(73.1%)であった(表 1)。

「計画的に利用している」製造業者の県内産大豆調達

方法については、「組合等が窓口の共同購入」がもっとも多く、順に「生産者からの直接購入」となっており、今後の利用については、ほぼ 9 割以上が「増加」と答えている。利用契機としては、「会社の方針」が多く、県内産大豆利用を販売戦略としてとらえていることが明らかとなった。

「利用しているが計画的でない」「利用していない」と答えた製造業者の主な理由は、第 1 に「価格が高い」、以下順に「安定した量が供給されるかわからない」「品質に不安がある」等があげられ、県内産大豆への信頼性が低いことが明らかとなった。しかし、これらの理由が解消した場合は、ほぼ 8 割の製造業者が県内産大豆を利用するとの前向きな意向を持っていた(図、表 2)。

また、県内産大豆の利用条件として、前記した内容の他に「用途別品種の作付」「収穫直後の販売」「生産履歴添付」「産地生産者別価格の設定および補助金のしくみの改正」「販売ルートの確立」「生産物情報の提供」等といった「顔の見える生産および仕組みづくり」を要望していた。

(2) 献立作成者の県内産大豆加工食品の利用状況と今後の意向

県内産大豆加工食品を、「計画的に利用している」と回答したのは 31 名(15%)で、「利用しているが計画的でない」「利用していない」と回答したのは 176 名(85%)であった(表 3)。

また、給食提供数では、「計画的に利用している」のは、200 人未満層の小規模校の割合が高く、「利用していない」のは 300 人以上層にみられた。

「計画的に利用している」場合の今後の利用については、「増加」「現状維持」となっており、県内産大豆加工食品利用への意向は強かった。

また、学校給食での利用契機は、役場等からの働きか

けが多いが、献立作成者が生産者に声掛けをして始まった場合もあり、食農教育の実施により、地産地消への動きが双方から徐々に出てきていると考えられた。

一方、「利用しているが計画的でない」「利用していない」と回答した主な理由としては、第1に「注文したくともどこに頼んでよいかわからない」、以下順に「安定した量が供給されるかわからない」「価格の面で高い」であったが、この理由が解消すればほぼ全体の9割が利用したいと前向きに考えており、特に「利用していない」と回答した場合に、その意向が強かった(表4,5)。

4 まとめ

県内の製造業者と献立作成者の県内産大豆及びその加工食品の利用については、双方とも前向きに考えているものの、そのためには現在の高価格、低品質及び販売ルート不明確さ等に問題があり、それらを早急に解決することが今後の消費拡大への可能性を高めると考えられた。

表1 県内産大豆利用状況

	回答数	割合
計画的に利用している	15	22.4%
利用しているが計画的でない	26	38.8%
利用していない	23	34.3%
未回答	3	4.5%
合計	67	100.0%

注) 大豆加工食品製造業者 67業者

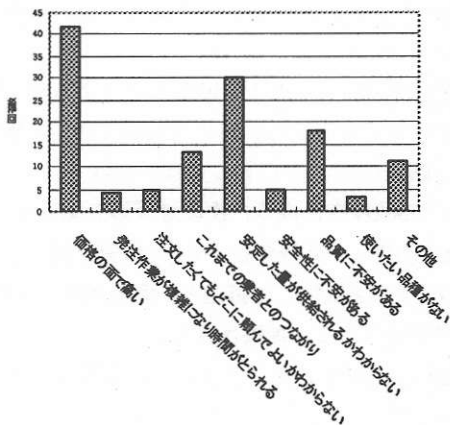


図 「利用しているが計画的でない」「利用していない」理由 (49業者:複数回答)

表2 「利用していない」等の理由解消後の製造業者の利用意向

	回答数	割合
すべて利用してもよい	8	16.3%
積極的に利用する	24	49.0%
今以上に利用する	5	10.2%
変わらない	7	14.3%
無回答	5	10.2%
合計	49	100.0%

注) 「利用しているが計画的でない」「利用していない」と回答した大豆加工食品製造業者 49業者

表3 県内産大豆加工食品の利用状況

	回答数	割合
計画的に利用している	31	15.0%
利用しているが計画的でない	37	17.9%
利用していない	139	67.1%
合計	207	

注) 学校給食献立作成担当者 207名

表4 「利用しているが計画的でない」「利用していない」理由

項目	計画的でない (割合)	利用していない (割合)	合計
価格の面で高い	13 35.1%	68 48.9%	81
発注作業が複雑になる	5 13.5%	26 18.7%	31
注文したくともどこに頼んでよいかわからない	19 51.4%	95 68.3%	114
これまでの業者とのつながり	14 37.8%	49 35.3%	63
安定した量が供給されるかわからない	20 54.1%	65 46.8%	85
安全性に不安がある	3 8.1%	11 7.9%	14
決まった時間に届くか不安	5 13.5%	15 10.8%	20
その他	11 29.7%	33 23.7%	44
	37	139	176

注) 「利用しているが計画的でない」「利用していない」と

回答した学校給食献立作成担当者 176名

表5 「利用していない」理由解消後の献立作成者の利用意向

	計画的でない (割合)	利用していない (割合)	合計
すべて利用してもよい	6 16.2%	22 15.8%	28
積極的に利用する	18 48.6%	78 56.1%	96
今以上に利用する	5 13.5%	23 16.5%	28
変わらない	7 18.9%	7 5.0%	14
無回答	1 2.7%	9 6.5%	10
	37	139	176

注) 「利用しているが計画的でない」「利用していない」と

回答した学校給食献立作成担当者 176名